

土木学会海洋開発委員会特別シンポジウム「津波シンポジウム」を開催しました (2017/6/28)

場所：災害科学国際研究所

テーマ：土木学会、海洋開発委員会、津波防災

平成 29 年 6 月 28 日に東北大学災害科学国際研究所にて土木学会海洋開発委員会特別シンポジウム「津波シンポジウム～これまでの変化とこれからの対応～」が開催され、約 80 人が参加しました。この特別シンポジウムは、土木学会海洋開発シンポジウムの翌日に開催され、津波を含む沿岸災害に対するこれまでの、また、今後のハード、ソフト両面からの対応を中心に行われました。当研究所からは今村文彦教授（所長）、サッパシー・アナワット准教授と有働恵子准教授（災害リスク研究部門）が関わりました。今村所長は基調講演「東日本大震災の経験を通じた実践的防災学の展開 — 津波減災学への動き」を行い、サッパシー准教授はパネルディスカッションに登壇しました。その後、サッパシー准教授は約 40 人が参加者した見学会の案内役を務めました。見学会は仙台市内にある海岸堤防、旧荒浜小学校、嵩上げ道路、避難の丘の順で行われました。参加者は本シンポジウムのテーマである津波防災のハードとソフトの両方を実際に見学しました。また、国土交通省と仙台市の担当からの説明を受け、意見交換することができました。



今村所長による基調講演



パネルディスカッションの様子



海岸堤防見学の様子



嵩上げ道路見学の様子

文責：サッパシー アナワット（災害リスク研究部門）